

立正大学博物館年報

21

令和 4 （2022） 年度

令和 5 （2023） 年度

立正大学博物館

序

コロナ禍の影響等により、長らく滞っておりました出版事業ですが、この度2年余の歳月を経て、年報を刊行するはこびとなりました。これまでお力添えを賜りましたみなさまに御礼申し上げますとともに、刊行の滞りにつきまして改めてお詫び申し上げます。

俗にコロナ禍、と称される3年間に於いて、当館の運営体制は大きく揺らぐこととなりました。令和2年度が全面的に休館となり、令和3年4月より再開できたものの、運営にはさまざまな制約が伴うこととなりました。また、不安定な社会環境により人材の確保に苦慮したことは想定外の出来事であり、結果的に多くの事業に支障を及ぼすこととなりました。

疾病が私たちの心身のみならず、社会にこれだけの影響を与えるものなのだ、ということ、改めて痛感した次第です。

思えば人類の歴史は、さまざまな疾病との闘いの連続であります。克服したかと思えば打ち負かされ、打ち負かされたかと思えば立ち上がる、という繰り返しにおいて、多様な変化に対応する力と智慧をつけていく。これはまさに、現在当館が置かれている状況と酷似しているように思います。

昭和26年に制定された博物館法が令和4年に改正されたことにより、大学博物館は博物館相当施設としてだけでなく、登録博物館として指定を受けることも可能になりました。

また、バーチャルミュージアム（インターネット上でのみの資料公開）が登録博物館として指定を受けることが可能となりました。デジタルアーカイブの推進を含め、館内展示とデジタルの融合は、当館としても積極的に推進しなければならない課題となります。

このほか改正博物館法では、従来の社会教育施設としての役割のみならず、文化芸術基本法の精神に基づき、多様な活動を行う施設として文化振興の役割を担うことや、他館や他の文化施設との連携なども求められています。当館では地元熊谷市や、産学連携協定先との積極的な連携を推進しており、熊谷市立熊谷図書館（美術・郷土資料室）において、熊谷校地建設時に発見された発掘出土品（考古資料）を郷土資料として出張展示すべく、準備を進めています。また、3月には産学連携協定を結ぶ秩父鉄道株式会社の設立125周年と、旧専門部歴史地理科創設から100周年となる地球環境科学部地理学科とを記念したミニ企画展「秩父鉄道と立正大学～地域活性化に向けた取り組み～」を開催します。

秩父鉄道の歴史を振り返りつつ、つながりの深い地理学科との地域活性化の取り組みを紹介するだけでなく、本学が運行した企画列車のヘッドマークやサボ（行先標）、記念乗車券など実用品の展示やフォトスポットの設置、子どもたちを対象としたお楽しみ企画など、当館に足を運んで頂けていなかった近隣地域のみなさまに世代を問わず喜んで頂けるよう、館を挙げて取り組んでいます。

もちろん、資料の貸し出しや調査依頼への対応など、本務におきましても積極的に行っています。地方自治体や個人からの要請を受け、直近では館蔵「吉田格コレクション」から「殿ヶ谷戸遺跡」などの石器、川口市石神貝塚出土の「ミミズク土偶」などを貸し出しています。また、館内調査では浮島・前浦遺跡や朝日遺跡、八重原窯や伝芝公園人物埴輪、「吉田格コレクション」から伊藤圭介蒐集石器などの調査に対応しています。

これらの活動は、収蔵資料を保存・管理してきたからこそ可能なことであり、歴史を紡ぐ「証拠」を保存することの大切さを物語っています。さらに、これらの活動を支える学芸員の存在もまた、当館にとって不可欠なものであります。

初代館長をお務めになられた坂詰秀一先生（本学特別栄誉教授）は、年報第1号に「近い将来、自然科学分野の資料なども随時加えて展覧に供することになっている」と記されており、学究の成果を広く世に披見することが当館の使命である、との道程を示されています。

当館が目指すべき未来のため、一層のお力添えをお願い申し上げます。

令和7年2月1日
立正大学博物館
館長 佐多芳彦

目 次

序

例言

I. 博物館の概要（令和4年度・令和5年度）	3
1. 組織と職員	
2. 立正大学組織表	
3. 立正大学博物館規程	
4. 立正大学博物館細則	
5. 施 設	
II. 事業報告（令和4年度・令和5年度）	8
1. 運営委員会	
2. 開館日数・入館者数	
3. 出 版	
4. 資料活用	
5. 展 示	
6. 教育普及	
7. 所蔵資料の整理・修復	
8. 地域連携・社会貢献	
III. 受贈図書目録（令和4年度・令和5年度）	18

例 言

1. 本書は、令和4年度・令和5年度における立正大学博物館の活動についての報告である。
2. 本書の執筆・編集は、佐多芳彦館長の指示により、学芸員の大谷徹および博物館事務課が担当した。
3. 令和4年度・令和5年度の事業実施にあたり、ご協力を賜りました機関・各位に、この場をお借りして御礼申し上げます。

3. 立正大学博物館規程

平成14年4月1日
規程第207号

(設置)

第1条 立正大学学則第9条の規定に基づき、熊谷キャンパスに「立正大学博物館」（以下「博物館」という。）を置く。

(目的)

第2条 博物館は歴史・宗教・芸術・民俗・産業・自然誌に関する学術的資料（以下「資料等」という。）を収集・保管し、これを組織的に展示し、広く社会に公開するとともに、これらの調査研究を行うことによって大学における教育・研究の発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は前条に規定する目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 資料等の収集、整理および保管
- (2) 資料等の展示および公開
- (3) 調査研究活動
- (4) 調査研究成果の発表および出版
- (5) 本学における博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力
- (6) 講演会、講習会および特別展示会の開催
- (7) その他必要な事業

(職員)

第4条 博物館に次の職員を置く。

- (1) 館長
- (2) 専門職員

(館長)

第5条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は博物館を代表し、博物館の業務を統括する。
- 3 館長は全学協議会に諮り、本学専任教職員より学長が任命する。
- 4 館長の任期は3年とし、再任を妨げない。
- 5 館長が欠けたときは補充しなければならない。この場合において、その任期は前任者の残任期間とする。

(専門職員)

第6条 専門職員は第3条に定める事業に従事するとともに、これに関連する業務を行う。

- 2 専門職員は館長の推薦を受け、学長が任命する。
- 3 専門職員は博物館学芸員の資格を有するものとし、該当者がいない場合は博物館学芸員に相当するものとする。
- 4 専門職員の任期は3年とし、再任を妨げない。

(運営委員会)

第7条 博物館の管理運営に必要な事項を審議するため、博物館運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会・構成)

第8条 委員会は、次の者をもって構成し、学長が委嘱する。

- (1) 館長
 - (2) 専門職員
 - (3) 学部長から2名
 - (4) 研究所長から2名
 - (5) 博物館学芸員関係学識経験者から1名
 - (6) 考古学および文化史関係学識経験者から1名
 - (7) 自然誌関係学識経験者から1名
- 2 館長の推薦により、前項に定める委員のほか、学識経験者若干名を加えることができる。なお、学識経験者委員の委嘱は学長が行う。
 - 3 委員会が必要と認めたときは、委員以外の者に出席を求め、意見を聴くことができる。

(委員の任期)

第9条 前条第1項第3号乃至第6号および第2項の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

- 2 任期中に欠員が生じた場合は、委員を補充し、任期は前任者の残任期間とする。

(委員会の運営)

第10条 委員会は、館長が招集し、議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、議事は出席委員の過半数の同意をもって決する。

(委員会の審議事項)

第11条 委員会は、以下の事項について審議する。

- (1) 資料等の収集、整理、保管、展示および公開に関する事項
- (2) 博物館の管理運営に関する事項
- (3) 調査研究活動ならびにその成果の発表および出版に関する事項
- (4) 博物館関係科目、その他関連授業科目の教育活動への協力に関する事項
- (5) 博物館の予算・決算に関する事項
- (6) その他必要な事業に関する事項

(細則)

第12条 この規程に定めるもののほか、管理運営上必要な事項は、立正大学博物館細則によるものとする。

(規程の改廃)

第13条 本規程の改廃は委員会および全学協議会の議を経て、学長が決定する。

2 前項に規定するもののほか、この規程の改廃の最終決定は、立正大学学園規約類の制定に関する規程第6条の規定による。

附 則

この規程は平成14年4月1日から施行する。

平成28年2月24日改正、平成28年4月1日施行

4. 立正大学博物館細則

平成14年4月1日

細則第208号

(趣旨)

第1条 この細則は立正大学博物館規程第12条の規定に基づき、同規程の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館日)

第2条 立正大学博物館（以下「博物館」という。）の開館日は原則として立正大学学則第31条に定める休業日および火曜日を除く日とする。

(開館時間)

第3条 博物館の開館時間は、午前10時から午後4時までとする。

(入館手続)

第4条 博物館に入館する者は所定の手続をとらなけ

ればならない。

2 館長は博物館における教育および研究活動に支障があると認める場合は、入館を許可しないことがある。

(入館料)

第5条 博物館の入館料は原則として無料とする。

(入館者の義務)

第6条 入館者は博物館の施設・資料等を毀損し、または滅失したときは、直ちに館長に届け出て、その指示に従わなければならない。

2 入館者は前項の規定にある損害に対し損害賠償の義務を負わなければならない。ただし、事情によりこれを免除または軽減することができる。

(資料等の利用)

第7条 博物館内において撮影、実測、特殊観察、複製製作等の目的で資料等の利用を希望する者は、館内利用許可申請書（様式1）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 資料の所蔵者および寄託者が学外にある場合は、当該資料の利用を希望する者は事前に所蔵者または寄託者の承認を受け、それを証明する書類を館内利用許可申請書に添付しなければならない。

3 利用を許可された者は次に掲げる事項を遵守しなければならない。

(1) 利用に際しては博物館の専門職員の指示に従うこと。

(2) 利用による成果を刊行物、映画フィルム、ビデオテープ等に発表したときは、本博物館の名称およびその所蔵、または保管である旨を明記すること。

(3) 利用により生じた著作物等は利用許可申請書に記載の目的以外には使用しないこと。

(4) 館長は、第1項の利用許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館内利用許可書（様式2）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、立正大学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経なければならない。なお、館長は管理上支障があると判断した場合は、許可を取り消すことができる。

(5) 第1項による利用許可を受けた者が、当該資料

等を毀損した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の利用料金)

第8条 前条第3項により許可を受けた者は、別に定める利用料金を速やかに経理部に納入しなければならない。

2 館長は、前項の定めにかかわらず次の各号のいずれかに該当する場合は、利用料金を全額免除することができる。

- (1) 各種教育機関や国または地方公共団体および公益法人が行う教育、学術および文化等に関する事業
- (2) 博物館法（昭和26年法律第285号）に規定する博物館等の行う事業
- (3) 学術研究
- (4) 前号のほか、館長が全額免除すべき特別の理由があると認めたとき。

3 前項の定めにより利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物1部以上を無償で博物館に納入しなければならない。ただし、館長が認めたときはこの限りでない。

(資料等の貸出)

第9条 資料等の貸出を受けようとする者は館外貸出許可申請書（様式3）を館長に提出し、その許可を受けなければならない。

2 館長は前項の館外貸出許可申請書の提出があったときは、審査のうえ館外貸出許可書（様式4）を交付する。ただし、重要文化財およびこれに準ずる資料等については、委員会の議を経て決定しなければならない。

3 館長は管理上支障があると認められる場合は、前項の許可を取り消すことができる。

4 第1項による許可を受けた者は、貸出期間中に当該資料等を毀損または滅失した場合は、損害賠償の義務を負わなければならない。

(資料等の貸出料金)

第10条 前条第2項による許可を受けた者は、別に定める料金を速やかに経理部に納入するとともに、貸出期間中および貸出に伴うすべての経費を負担するものとする。

2 前項の定めにかかわらず、第8条第2項第1号、第2号および第4号のいずれかに該当する場合は料金を全額免除する。

3 前項の定めにより貸出利用料金を全額免除された者は、利用により生じた著作物を1部以上、博物館に寄贈しなければならない。ただし、館長が特に認めたときはこの限りでない。

(寄託)

第11条 資料等を寄贈・寄託しようとする者は、その品目、点数、期間等を寄贈申請書（様式5）寄託申込書（様式6）に記入のうえ、館長に提出するものとする。

2 館長は前項に定める寄贈・寄託の申出があった時は、委員会の審議に附し、受入の承認がなされたものについて、学長に意見書を提出しなければならない。

3 館長は寄贈・寄託を受けた時は、寄贈・寄託者に対して当該資料の受領証（様式7）・受託証（様式8）を交付するものとする。

4 館長は寄託を受けた資料等について十分な注意をもって保管しなければならない。

(細則の改廃)

第12条 本細則の改廃は、委員会および全学協議会の議を経るものとする。

附 則

1 この細則に定めのない事項については、館長がその都度、委員会に諮り処理する。

2 この細則は平成14年4月1日から施行する。
この細則は平成15年4月1日から施行する。

(申請書様式一覧)

様式1：館内利用許可申請書

様式2：館内利用許可書

様式3：館外貸出許可申請書

様式4：館外貸出許可書

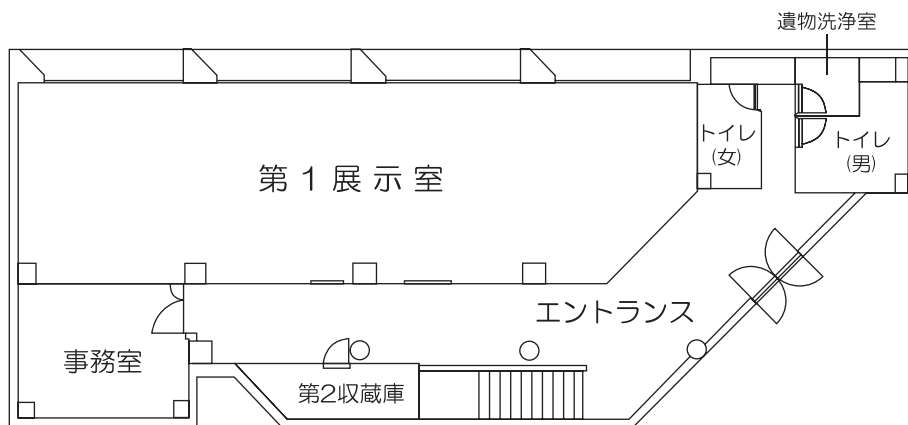
様式5：博物館資料寄贈申請書

様式6：博物館資料寄託申請書

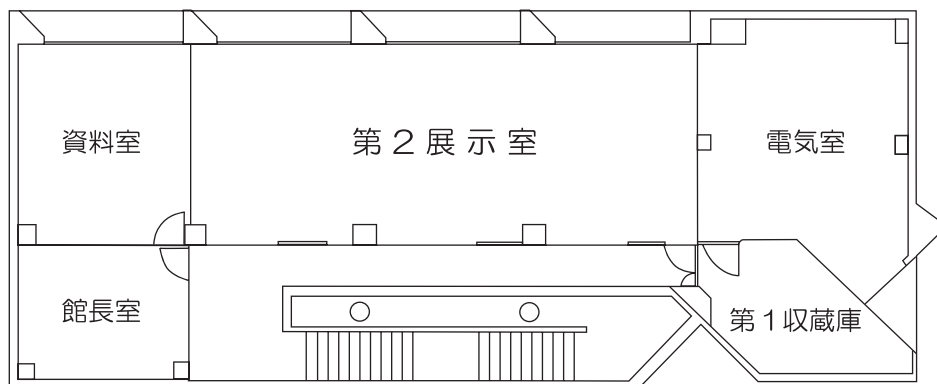
様式7：博物館資料受領証

様式8：博物館資料受託証

5. 施 設



1階・平面図



2階・平面図

- 建物
所在地・・・埼玉県熊谷市万吉 1700
建築面積・・・376.8 m²
構 造・・・鉄筋コンクリート造 2階建

- 各室面積一覧
(1階)
第1展示室・・・93.88 m²
事 務 室・・・17.10 m²
第2収蔵庫・・・3.22 m²
ト イ レ・・・11.01 m²
遺物洗浄室・・・2.26 m²
エントランス・・・45.64 m²

- (2階)
第2展示室・・・71.22 m²
館 長 室・・・16.98 m²
資 料 室・・・23.89 m²
第1収蔵庫・・・12.30 m²
電 気 室・・・39.00 m²

- 各室仕様
(第1展示室・事務室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

- (第2展示室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ミネラートン

- (館長室・資料室)
床・・・タイルカーペット敷
壁・・・ビニールクロス貼り
天井・・・ジブトーン

- 電気設備
受電設備・・・6.6KV
変圧器設備・・・電灯ー 100KVA 動力ー 80KVA
照明設備・・・展示室ーLEDライト使用
館長室・事務室・資料室ー蛍光灯使用

- 防犯・防災設備
防犯設備・・・各室熱センサー取付、非常通報設備
ITV 設備・・・CCD カメラ 4 台、展示室等監視
自動火災報知設備・・・P 型 1 級 5 回線
消化設備・・・粉末消火器 9 台

- 空調設備
空調機・・・空冷式、パッケージエアコン (個別)

- 給排水設備
給水設備・・・市水道使用
給湯設備・・・貯湯式電気湯沸器

Ⅱ. 事業報告

令和4年度

令和4年度博物館運営委員会 運営委員

第1号委員 佐多 芳彦（博物館長・文学部教授）

第2号委員 野澤 均（専門職員・非常勤嘱託）

第3号委員 板野 晴子（社会福祉学部長・
社会福祉学部教授）

須田 知樹（地球環境科学部長・
地球環境科学部教授）

第4号委員 川真田嘉壽子（法制研究所所長・
法学部教授）

村尾 泰弘（社会福祉研究所所長・
社会福祉学部教授）

第5号委員 久保真紀子（博物館関係学識経験者・
仏文学部専任講師）

第6号委員 本間 岳人（文化史関係学識経験者・
文学部専任講師）

第7号委員 川野 良信（自然史関係学識経験者・
地球環境科学部教授）

1. 運営委員会

令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面による会議の開催が困難となったため、メール審議とした。

①運営委員会（定例）

・日 時：メール審議

議 事

I. 審議事項

1. 令和4年度事業計画について

2. 令和4年度予算について

3. その他

II. 報告事項

1. 令和4年度博物館運営委員について

2. 令和3年度事業報告・決算報告について

3. その他

審議事項について、異議なく承認された。

2. 開館日数・入館者数

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、開館に必要な人材確保に苦慮した1年であり、開館日数は138日（原則として月・木・金曜日開館、オープンキャンパス等による臨時開館あり）、入館者数は87名であった（下表参照）。

3. 出 版

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、出版事業に必要な日数と人材確保ができず、館報「万吉だより」および「立正大学博物館年報」の発行を中止せざるを得なかった。

4. 資料活用

(1) 館外利用

次の機関に所蔵資料の貸出および掲載の許可を行った。

開館日数・入館者数

1期	4月	5月	6月	7月	8月	9月	1期計	
開館日数（日）	14	14	15	7	6	12	68	
来館者数（人）	21	9	14	6	1	2	53	
2期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2期計	通年計
開館日数（日）	11	10	12	14	12	11	70	138
来館者数（人）	5	9	2	3	0	15	34	87



新田山遺跡出土弥生土器（第2展示室）

①町田市教育委員会（町田デジタルミュージアム）

町田デジタルミュージアム掲載のため

貸出資料：天沼窯跡（写真）4点

貸出期間：4月1日（金）～掲載終了まで

②千葉市埋蔵文化財センター

「千葉いまむかし」第36号に実測図を掲載

貸出資料：新田山遺跡出土弥生土器2点

貸出期間：8月3日（水）から刊行まで

③さいたま市総務局総務部アーカイブセンター

「さいたま市史通史編 原始・古代Ⅰ」に掲載

貸出資料：花輪台式土器（花輪台貝塚出土）

1点

貸出期間：12月1日（木）から

④さいたま市総務局総務部アーカイブセンター

「さいたま市史通史編 原始・古代Ⅰ」に掲載

貸出資料：立正大学博物館編『城ノ台北貝塚・
子母口貝塚考古資料』1点

貸出期間：令和5年2月1日（水）から

(2) 館内利用

個人による資料調査が2件あった。

- ・花輪台貝塚出土資料の調査
- ・縄文時代の骨角製装身具・儀器の調査

称名寺貝塚B地点 骨角器・貝輪

赤塚城址貝塚 骨角器・貝輪

横橋貝塚 弓形鹿角製品

5. 展 示

(1) 常設展示

—第1展示室（1F）—

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈された撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が昭和33～55（1958～1980）年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。

撫石庵コレクションは、アジアの梵音具を中心とした資料で、とくに伝檜原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として十指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝檜原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈され、実際に撞いて音を聴くことができる資料である。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では熊谷市所在野原古墳群の出土資料、東京都伝芝公園出土人物埴輪（頭部）等を展示している。



展示状況（第1展示室）



館務実習生による展示作業（第1展示室）

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器等を展示しているほか、平成27（2015）年に寄贈された仙場右羊コレクションである中国古代瓦を展示している。

エントランスでは、撫石庵コレクションの日本をはじめ朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具や熊谷キャンパスにおける施設の新設などに際して、文化財保護法によって定められた遺跡の発掘調査で出土した旧石器時代から近世に至る資料を展示している。また、天正8（1580）年創立の飯高壇林に淵源が求められる立正大学の歴史をパネルで紹介している。

—第2展示室（2F）—

吉田格コレクション、樺太出土資料、海外発掘調査資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏（立正大学専門部地歴科・昭和16（1941）年卒・平成18（2006）年没）寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料（鹿角）は縄文文化の研究上、

きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介（日本最初の理学博士）蒐集の石器は『日本産物誌』明治9（1876）年に収められているものであり、嘉永5（1852）年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏（元本学名誉教授）寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

海外発掘調査資料は、昭和42（1967）年～昭和52（1977）年にかけて、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘されたティラウラコット遺跡の出土資料群であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として注目されている。

平成26（2014）年から立正大学では、ウズベキスタン学術調査隊を派遣し、仏教遺跡カラ・テペ、仏塔ズルマラ周辺の発掘調査を行っている。その調査成果の一部とウズベキスタン共和国との交流の様子を展示している。

(2) 特別展示

(3) 企画展示

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、企画準備に必要な日数と人材確保ができず、中止とした。

(4) 実習展示

博物館館務実習生3名が、収蔵品から来館者に紹介したい収蔵品を選んだミニ展「実習生の選んだ博物館の逸品」を開催した。実習生が展示構成、解説文、キャプション、デザインなど、展示にかかるすべてを考え、八坂前窯跡出土の文字瓦、野原古墳群出土大刀・フラスコ瓶、熊谷校地内遺跡出土の土器などを展示した。

6. 教育普及

(1) 博物館館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れた。

実習生は文学部史学科2名、心理学部対人・社会心理学科1名の計3名であった。

実習期間：10月8日（土）～10月10日（月）

11月12日（土）～11月14日（月）

延べ6日間

実習内容

(1) 10月8日（土）～10日（月）

次の内容で熊谷博物館において実施した。

・10月8日（土）

文化史に関する講義と資料の梱包の実習

井上尚明先生（立正大学非常勤講師）

・10月9日（日）

資料と調査研究についての講義

佐多芳彦先生（文学部教授）

・10月10日（月）

古文書の取り扱い講義と整理に関する実習

栗原健一先生（文学部講師）

(2) 11月12日（土）～11月14日（月）

次の内容で熊谷博物館において実施した。

・11月12日（土）

刀剣に関する講義と刀剣の取り扱い（手入れ）実習

田嶋和久先生（文学部教授）

・11月13日（日）

資料の取り扱いについての実習

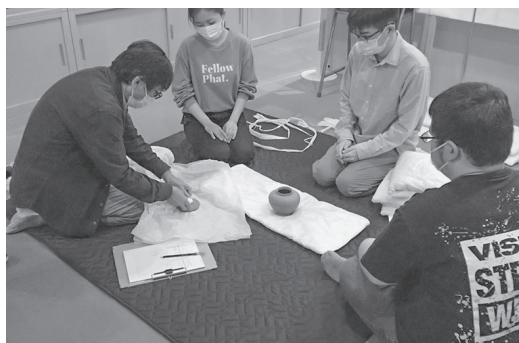
キャプション・リーフレット作成実習

紺野英二先生（文学部特任講師）

・11月14日（月）

博物館の展示に関する実習

紺野英二先生（文学部特任講師）



資料の梱包



刀剣の取り扱い

7. 所蔵資料の整理・修復

当館では、収蔵資料のうち脆弱で今後の保存・展示が困難なものを選び、継続して保存修復事業を実施している。

当年度は館務実習等で使用している刀剣のうち2振について、研ぎを中心に修復作業を行った。



修復後の刀剣

8. 地域連携・社会貢献

当館は埼玉県博物館連絡協議会に加盟しており、特に所属する東・北部ブロック加盟館園との情報共有・地域連携に取り組んでいる。総会・研修会への出席のほか、加盟館園の利用促進を図り、生涯学習の場として、広く地域住民の理解を得るとともに、加盟館園相互の連携を密にすることを目的として、毎年スタンプラリーを実施している。

参加者がスタンプラリーを通じ、さまざまな加盟館園を訪れることによって、展示内容等から東・北部ブロック内各地域の風土的差異や共通性を発見し、郷土学習への意識萌芽につながることが期待される。

令和4年度は7月20日（水）～11月30日（水）の期間で実施され、当館での景品配布数は貯金箱1（6館園訪問者に進呈）、シャープペンシル1（3館園訪問者に進呈）であった。

令和5年度

令和5年度博物館運営委員会 運営委員

第1号委員 佐多 芳彦（博物館長・文学部教授）

第2号委員 大谷 徹（専門職員・非常勤嘱託）

第3号委員 板野 晴子（社会福祉学部長・
社会福祉学部教授）

須田 知樹（地球環境科学部長・
地球環境科学部教授）

第4号委員 川真田嘉壽子（法制研究所所長・
法学部教授）

村尾 泰弘（社会福祉研究所所長・
社会福祉学部教授）

第5号委員 久保真紀子（博物館関係学識経験者・
仏教学部専任講師）

第6号委員 本間 岳人（文化史関係学識経験者・
文学部専任講師）

第7号委員 川野 良信（自然史関係学識経験者・
地球環境科学部教授）

1. 運営委員会

令和5年度も新型コロナウイルス感染症拡大の余波により、対面による会議の開催を自粛し、メール審議とした。

①第1回運営委員会（定例）

・日 時：メール審議

議 事

I. 審議事項

1. 令和5年度事業計画について
2. 令和5年度予算について
3. その他

II. 報告事項

1. 令和5年度博物館運営委員について
2. 令和4年度事業報告・決算報告について
3. その他

審議事項について、異議なく承認された。

②第2回運営委員会（臨時）

・日 時：メール審議

議 事

I. 審議事項

1. 「立正大学博物館規程」の改正について

組織再編に伴い学術情報セクターが発足し、博物館は図書館・文書館とともに学術情報セクターに属することとなった。また、事務所管として博物館事務課が発足し、博物館のほか、ロータスギャラリー特別展示室の管理運営が、史料編纂課より移管される旨を説明。

以上を踏まえ、運営委員に規程改正案を提示し、審議を依頼。本件は異議なく承認された。

2. 開館日数・入館者数

新型コロナウイルス感染症拡大の余波を受け、開館に必要な人材の確保が引き続きままならない状況であったが、令和5年5月7日の「埼玉県博物館連絡協議会 彩の国『新しい生活様式』安心宣言」制度の終了に伴い、最終的な開館日数は161日（原則として月・水・木・金曜日開館、オープンキャンパス等による臨時開館あり）を確保し、入館者数は277名と以前の来館水準を取り戻しつつある。（下表参照）

開館日数・入館者数

1 期	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 期計		
開館日数（日）	12	12	13	12	9	12	70		
来館者数（人）	9	107	14	6	18	6	160		
2 期	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	2 期計	通年計	
開館日数（日）	15	16	14	15	15	16	91	161	
来館者数（人）	18	12	46	17	7	17	117	277	

3. 出 版

新型コロナウイルス感染症拡大の余波を受け、出版事業に必要な日数と人材確保ができず、館報「万吉だより」および「立正大学博物館年報」の発行を中止せざるを得なかった。

4. 資料活用

(1) 館外利用

次の機関に所蔵資料の貸出および掲載の許可を行った。

①岩宿博物館

企画展「岩宿Ⅱ石器文化からみた関東地方」展示のため

貸出資料：吉田格コレクション

（殿ヶ谷戸遺跡出土石器12点

熊ノ郷遺跡出土石器2点）

貸出期間：令和5年9月11日（月）～

令和5年12月21日（木）まで

②横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

ブックレット『シリーズ横浜の遺跡 vol.2 野島貝塚』掲載のため

（申請者が平成27年10月29日に撮影した写真を使用）

貸出資料：野島貝塚資料（釣針、貝輪）写真2点

貸出期間：令和5年9月19日（火）～

令和5年10月30日（月）まで

③鳩山町教育委員会

国指定記念特別展「南比企窯跡展」の展示のため

貸出資料：南比企窯跡群出土遺物19点

東金子窯跡群出土遺物11点

貸出期間：令和6年3月13日（水）～

令和6年4月10日（水）まで



国指定記念特別展「南比企窯跡展」（鳩山町）

(2) 館内利用

当館所蔵資料の調査・研究に関する利用が3件あった。

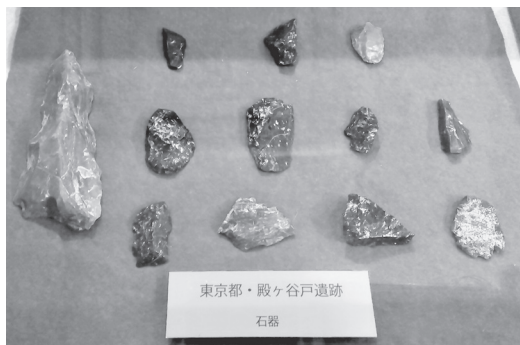
- ・吉田格コレクション

殿ヶ谷戸遺跡出土石器

熊ノ郷遺跡出土石器

- ・南比企窯跡群、東金子窯跡群出土遺物

- ・浮島前浦遺跡出土縄文土器



殿ヶ谷戸遺跡出土石器（第2展示室）

5. 展 示

(1) 常設展示

—第1展示室（1F）—

眞鍋孝志氏（日本古鐘研究会会長）より寄贈された撫石庵コレクションおよび立正大学考古学研究室が昭和33～55（1958～1980）年にかけて文部省（現文部科学省）の科学研究費の交付などを受けて実施した「古代窯業の考古学的研究」によって発掘された資料を中心に展示している。

撫石庵コレクションは、アジアの梵音具を中心とした資料で、とくに伝檜原市出土の梵鐘は、わが国の初現期の梵鐘として十指に入るもので、極めて貴重な資料である。この伝檜原市出土鐘を復元した鐘が新たに寄贈され、実際に撞いて音を聴くことができる資料である。

この他に、旧石器時代の資料として北海道白滝遺跡・報徳遺跡、神奈川県朝日遺跡の出土品、縄文時代では埼玉県石神貝塚、古墳時代では熊谷市所在野原古墳群の出土資料、東京都伝芝公園出土人物埴輪（頭部）等を展示している。

古代から近世にかけては、千葉県九十九坊廃寺・長熊廃寺跡出土品、神奈川県下出土火葬骨蔵器等を展示しているほか、平成27（2015）年に寄贈された仙場右羊コレクションである中国古代瓦を展示している。

エントランスでは、撫石庵コレクションの日本をはじめ朝鮮半島・中国・タイ・ミャンマー・スリランカなどアジア各地の梵音具や熊谷キャンパスにおける施設の新設などに際して、文化財保護法によって定められた遺跡の発掘調査で出土した旧石器時代から近世に至る資料を展示している。また、天正8（1580）年創立の飯高壇林に淵源が求められる立正大学の歴史をパネルで紹介している。



ウズベキスタン学術調査隊関連 (第2展示室)

—第2展示室 (2F) —

吉田格コレクション、樺太出土資料、海外発掘調査資料を展示している。

吉田格コレクションは、吉田 格氏 (立正大学専門部地歴科・昭和16 (1941) 年卒・平成18 (2006) 年没) 寄贈のコレクションである。吉田氏は縄文文化研究者として著名であり、とくに縄文時代早期の花輪台式土器、後期の称名寺式土器は吉田氏によって設定された型式標準資料として学界に周知されている。

とくに称名寺貝塚出土の土器・石器・骨角器および骨角器原料 (鹿角) は縄文文化の研究上、きわめて重要な資料である。

また、本草学者・伊藤圭介 (日本最初の理学博士) 蒐集の石器は『日本産物誌』明治9 (1876) 年に収められているものであり、嘉永5 (1852) 年の箱書きを持つ収蔵箱に収納されている石器とともに、極めて貴重な資料として吉田コレクションに収められている。

樺太出土資料は、久保常晴氏 (元本学名誉教授) 寄贈のコレクションで、同氏が1930年代に樺太の地を踏査された際に収集されたものである。樺太出土資料は、現在、日本各地に所蔵されているが、その一つとして立正大学所蔵品の存在が知られている。

海外発掘調査資料は、1967年～1977年にか

て、立正大学がネパール王国に派遣した発掘調査団によって発掘されたティラウラコット遺跡の出土資料群であり、とくに日・ネ親善のためネパール考古局より寄贈された資料である。

ティラウラコット遺跡は、釈尊出家の故城ーカピラ城跡の有力な比定遺跡として注目されている。

平成26 (2014) 年から立正大学では、ウズベキスタン学術調査隊を派遣し、仏教遺跡カラ・テペ、仏塔ズルマラ周辺の発掘調査を行っている。その調査成果の一部とウズベキスタン共和国との交流の様子を展示している。

(2) 特別展示

(3) 企画展示

新型コロナウイルス感染症拡大の余波を受け、企画準備に必要な日数と人材確保ができず、中止とした。

(4) 実習展示

本年度は実施しなかった。

6. 教育普及

(1) 博物館館務実習

今年度も博物館学芸員資格取得のための館務実習生を受け入れた。

実習生は文学部史学科2名、心理学部対人・社会心理学科1名の計3名であった。

実習期間：8月10日 (木) ～8月13日 (日)

8月31日 (木) ～9月2日 (土)

延べ7日間

実習内容

(1) 8月10日 (木) ～8月13日 (日)

次の内容で熊谷博物館において実施した。



資料の梱包



古文書の整理

- ・ 8月10日（木）
文化史に関する講義と資料梱包の実習
井上尚明先生（立正大学非常勤講師）
- ・ 8月11日（金）
刀剣に関する講義と刀剣の取り扱い（手入れ）実習
田嶋和久先生（文学部教授）
- ・ 8月12日（土）
古文書の取扱い講義と整理に関する実習
栗原健一先生（文学部講師）
- ・ 8月13日（日）
館長講話：資料と調査研究
佐多芳彦先生（文学部教授）
博物館施設見学（熊谷市立熊谷図書館）
紺野英二先生（文学部講師）



博物館施設見学（熊谷市立熊谷図書館）

- (2) 8月31日（木）～9月2日（土）
次の内容で熊谷博物館において実施した。
- ・ 8月31日（木）
資料の取り扱いに関する実習
紺野英二先生（文学部講師）
- ・ 9月1日（金）
資料の取り扱いに関する実習
紺野英二先生（文学部講師）
- ・ 9月2日（土）
資料の取り扱いに関する実習
紺野英二先生（文学部講師）

7. 所蔵資料の整理・修復

整理・修復に必要な日数と人材確保ができず、本年度は実施しなかった。

8. 地域連携・社会貢献

(1) 埼玉県博物館連絡協議会

当館は埼玉県博物館連絡協議会に加盟しており、特に所属する東・北部ブロック加盟館園との情報共有・地域連携に取り組んでいる。総会・研修会への出席のほか、加盟館園の利用促進を図り、生涯学習の場として、広く地域住民の理解を得るとともに、加盟館園相互の連携を密にすることを目的として、毎年スタンプラリーを実施している。

参加者がスタンプラリーを通じ、さまざまな加盟館園を訪れることによって、展示内容等から東・北部ブロック内各地域の風土的差異や共



刀剣の取り扱い

通性を発見し、郷土学習への意識萌芽につながることが期待される。

令和5年度は7月15日（土）～10月1日（日）の期間で実施され、当館での景品配布数は貯金箱0（6館園訪問者に進呈）、シャープペンシル1（3館園訪問者に進呈）であった。

（2）熊谷市との連携

博物館館務実習において、展示状況や収蔵環境などの知見を拡げるため、美術・郷土資料展示室（熊谷図書館）にご協力頂き、館外実習として施設見学を行っている。令和5年度は8月13日（日）に実施した。

また、当館に近接する吉岡公民館（埼玉県熊谷市）では、仲間との交流を深め、教養を高めることを目的とした「ふれあい学級」において、館外研修・人権研修などを年10回開催している。その一環として当館に受け入れの要請があり、

12月7日（木）に34名が見学を訪れた。

当日は大谷学芸員が対応に当たり、館の概要やコレクションに関する説明のほか、熊谷キャンパス開発時に発掘された遺跡・遺物に関する説明を行った。

（3）講師派遣

当館では要請に応じた講師派遣を積極的に行っており、教育・研究活動を通じた社会貢献を行っている。令和5年度は本庄早稲田の杜ミュージアムで開催されたミニ企画展「本庄市の古墳2 旭・小島古墳群」（会期：10月7日（土）～12月24日（日））において、古墳時代に埴輪生産が盛んだった埼玉県をフィールドとする第一線の研究者として、大谷学芸員が招かれ、11月11日（土）に「埼玉県における埴輪の受容と展開」と題した講演を行った。

Ⅲ. 受贈図書目録

1. 令和4年度(2022年4月～2023年3月)

〈青森県〉

八戸市教育委員会

- ・八戸市埋蔵文化財調査報告書 八戸城第48地点 八戸市埋蔵文化財調査報告書第179集
- ・八戸市内遺跡発掘調査報告書45 八戸市埋蔵文化財調査報告書第180集
- ・八戸市内遺跡発掘調査報告書46 史跡是川石器時代遺跡 八戸市埋蔵文化財調査報告書第181集

八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館

- ・年報 第11号－令和3年度－
- ・研究紀要 第11号
- ・掘り day はちのへ 第25号

つがる市教育委員会

- ・つがる市遺跡調査報告書13 竹鼻(3)遺跡Ⅱ

〈茨城県〉

取手市埋蔵文化センター

- ・目で見てふりかえる取手

〈栃木県〉

小山市教育委員会

- ・千駄塚浅間遺跡Ⅱ 小山市文化財調査報告書第108集

大田原市教育委員会・

大田原市なす風土記の丘湯津上資料館・

大田原市歴史民俗資料館

- ・なす風土記だより 第3号

〈群馬県〉

高崎市観音塚考古資料館

- ・古墳時代のものづくり－高崎市内の石製模造

品製作遺跡－

- ・地方から見た継体朝とその前後～6世紀前半期の群馬の古墳時代～

かみつけの里博物館

- ・鈴－よみがえる古墳時代の響き－

桐生市教育委員会

- ・桐生市内遺跡発掘調査報告 令和元年度・2年度調査 桐生市文化財調査報告書第42集

吉岡町教育委員会

- ・片貝Ⅳ遺跡 吉岡町文化財調査報告書第39集
- ・七日市東遺跡・七日市遺跡 吉岡町文化財調査報告書第40集

長野原町教育委員会

- ・林中原Ⅰ遺跡Ⅸ 長野原町埋蔵文化財調査報告第48集
- ・林中原Ⅰ遺跡ⅩⅤ 長野原町埋蔵文化財調査報告第49集

やんば天明泥流ミュージアム

- ・年報 第1号 令和3年度事業報告

〈埼玉県〉

埼玉県教育委員会

- ・埋文さいたま 第65号

埼玉県立さきたま史跡の博物館・

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第15号

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・家形埴輪

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・武蔵武士と源氏－鎌倉殿誕生の時代－

埼玉県立川の博物館

- ・令和4年度特別展 海なし雪なし火山なし－ないけどある！ 埼玉と深い関係－
- ・令和4年度秋季企画展 かわはくで生きたものを探せ！
- ・紀要 第22号

- ・かわはく No.72
- ・かわはく No.73
- ・かわはく No.74

埼玉県立自然の博物館

- ・The 蛇紋岩 それは、水が動いた証 展示解説書
- ・研究報告 第16号
- ・ニュースレター 第38号
- ・ニュースレター 第39号

埼玉県平和資料館

- ・戦争と学校ー子供たちのたたかいー

さいたま文学館

- ・館報 第25号
- ・紀要 第2号

埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・久喜市 本田遺跡 第471集
- ・嵐山町 古里古墳群清水支群 第472集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅵ 第473集
- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅶ 第474集
- ・加須市 宮西Ⅱ／宮東Ⅱ 第475集
- ・久喜市 小林八束1遺跡Ⅳ 第476集
- ・行田市 北大竹遺跡 第477集
- ・越谷市 越谷警察署前遺跡 第478集
- ・久喜市 栗橋宿西本陣跡Ⅰ 第479集
- ・さいたま埋文リポート2022 年報42（令和3年度版）
- ・研究紀要 第36号
- ・北大竹遺跡 特別公開パンフレット

さいたま市立博物館

- ・天保の時代とその世相～さいたまに残る史料から見た改革～

さいたま市立浦和博物館

- ・館報 あかんさす Vol.50（第119号）

岩槻人形博物館

- ・人形作り いろはの“い”～後世に伝えたい桐塑の技～

- ・描かれた雛祭り にんぱくの浮世絵コレクション

鉄道博物館

- ・鉄道写真家・南 正時作品展～蒸気機関車のある風景 西日本編～

川越市立博物館

- ・川越なつかし写真館

川越氷川神社

- ・川越氷川神社本殿 江戸彫りの極致

熊谷市教育委員会

- ・彦松遺跡・下本郷遺跡・瀬戸古墳群第14号墳 熊谷市埋蔵文化財調査報告書第43集

熊谷市立熊谷図書館

- ・通史でたどる 熊谷の歴史

行田市郷土博物館

- ・開館35周年記念第32回テーマ展 縄文・弥生の足あとー古墳以前の行田を知るー 展示解説図録
- ・開館35周年記念第35回企画展 天正十八年～関東の戦国から近世～ 展示解説図録
- ・館報 第21号

秩父市教育委員会

- ・秩父・下蒔田遺跡 '20

加須市教育委員会

- ・騎西城跡 KB15区調査ー中近世編ー遺物1 加須市埋蔵文化財調査報告書第15集

本庄早稲田の杜ミュージアム

- ・常設展示図録

春日部市教育委員会

- ・陣屋遺跡10次地点 春日部市埋蔵文化財調査報告第24集
- ・馬場遺跡7次地点 春日部市埋蔵文化財調査報告第25集
- ・米島西宮遺跡2次地点 春日部市埋蔵文化財調査報告第26集

春日部市郷土資料館

- ・明治天皇と春日部～巡幸・御簾場・梅田ごぼう～

狭山市立博物館

- ・拓くひとびと－狭山の奈良・平安－

草加市立歴史民俗資料館

- ・令和３年度 年報

戸田市立郷土博物館

- ・要覧【令和３年度】
- ・要覧【令和４年度】
- ・戸田市関係新聞記事索引（平成Ⅳ）
- ・研究紀要 第30号

戸田市立郷土博物館・

彩湖自然学習センター

- ・みどりとともに

朝霞市博物館

- ・台の城山遺跡と向山遺跡－弥生の斧を手に入れたムラ－
- ・研究紀要 第18号

久喜市立郷土資料館

- ・第12回特別展 敦 中島家の系譜－中島敦没後80年－

八潮市立資料館

- ・第45回企画展 語り継ぐ戦争
- ・第46回企画展 疫病と向き合う人びと

富士見市立水子貝塚資料館

- ・埼玉の四大貝塚

富士見市難波田城資料館

- ・鷹場の村々

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・武士の群像～ふじみ野の中世 フロンティアの世界

蓮田市教育委員会

- ・馬込七番第2遺跡－第5・6調査地点－
蓮田市文化財調査報告書第64集
- ・関戸野久保遺跡－第3調査地点－ 蓮田市文

化財調査報告書第65集

幸手市郷土資料館

- ・アマチュア写真家 浜田得一撮影 幸手町記録写真集－大正・昭和のふるさとの風景－

鶴ヶ島市教育委員会

- ・鶴ヶ島市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ 持家遺跡第1次 仲道柴山遺跡24次 鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書第90集
- ・北権現遺跡第24・25次発掘調査報告書 鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告書第91集

白岡市教育委員会

- ・タタラ山遺跡（第8・11地点） 白岡市埋蔵文化財調査報告書第31集
- ・白岡の昔話・伝説～語り継がれる白岡遺産～
白岡ブックレット4
- ・白岡市生涯学習センター歴史資料展示室紀要4

和光市教育委員会

- ・市内遺跡発掘調査報告書24 和光市埋蔵文化財調査報告書第68集

毛呂山町教育委員会

- ・鎌倉街道上道総括報告書 毛呂山町埋蔵文化財調査報告書第35集

小川町教育委員会

- ・町内遺跡発掘調査報告書XXII 小川町埋蔵文化財調査報告書第39集

神川町教育委員会

- ・皂樹原遺跡第5次（炭窯・女堀大溝編）神川町埋蔵文化財調査報告第17集

寄居町教育委員会

- ・桜沢上ノ原遺跡 寄居町文化財調査報告第45集

宮代町郷土資料館

- ・真藏院の版木

日本工業大学工業技術博物館

- ・工業技術博物館ニュース No.113

- ・工業技術博物館ニュース No.114
- ・工業技術博物館ニュース No.115

〈千葉県〉

千葉県立中央博物館

- ・バラのすべて
- ・研究報告 第16巻 第1号
- ・ニュースレターしいむじな2021・夏73
- ・ニュースレターしいむじな2021・秋74
- ・ニュースレターしいむじな2021・冬75
- ・ニュースレターしいむじな2022・春76

千葉県立関宿城博物館

- ・関東 塩ものがたり
- ・研究報告 第26号

市川市立市川考古博物館

- ・館報 第48号
- ・館報 第49号

船橋市飛ノ台史跡公園博物館

- ・第20回縄文コンテンツポラリー展 in ふなばし
とびはくにもぐろう！ ～縄文時代と対話する～
- ・船橋のいちばん暑かった時
- ・紀要 第18号

四街道市教育委員会

- ・令和2年度 四街道市市内遺跡発掘調査報告書

袖ヶ浦市郷土博物館

- ・富士山ー畏れ・敬い・憧れー

〈東京都〉

明治大学博物館・

南山大学人類学博物館

- ・合同シンポジウム報告書2019－2020

法政大学 HOSEI ミュージアム

- ・紀要 第2号

日本芸術文化振興会日本博事務局

- ・「日本博」に係る効果検証報告書 令和4年3月

日本文化財保護協会

- ・紀要 第6号

国立文化財機構文化財活用センター

- ・ミュージアムをめぐるファンドレイジング報告書

日本博物館協会

- ・博物館研究 Vol.57 No.4 通巻647号
- ・博物館研究 Vol.57 No.5 通巻648号
- ・博物館研究 Vol.57 No.6 通巻649号
- ・博物館研究 Vol.57 No.7 通巻650号
- ・博物館研究 Vol.57 No.8 通巻651号
- ・博物館研究 Vol.57 No.9 通巻652号
- ・博物館研究 Vol.57 No.10 通巻653号
- ・博物館研究 Vol.57 No.11 通巻654号
- ・博物館研究 Vol.57 No.12 通巻655号
- ・博物館研究 Vol.58 No.1 通巻656号
- ・博物館研究 Vol.58 No.2 通巻657号
- ・博物館研究 Vol.58 No.3 通巻658号
- ・ICOM-DRMC 年次大会報告書

立正大学障害学生支援室

- ・年報 第4号
- ・年報 第5号・第6号合併号

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第54巻 第2号
- ・立正経営論集 第55巻 第1号

立正大学博物館学芸員課程

- ・年報 第24号

駒澤大学禅文化歴史博物館

- ・企画展 書でたどる良寛の足跡 図録
- ・紀要（令和2年度）第5号
- ・紀要（令和3年度）第6号

國學院大學博物館

- ・研究報告 第39輯

実践女子大学香雪記念資料館

- ・館報 第19号 2021年度

女子美術大学

- ・JOSHIBI No.195
- ・JOSHIBI No.196

立教学院展示館

- ・立教大学の誕生

渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第877号
- ・青淵 第878号
- ・青淵 第879号
- ・青淵 第880号
- ・青淵 第881号
- ・青淵 第882号
- ・青淵 第883号
- ・青淵 第884号
- ・青淵 第885号
- ・青淵 第886号
- ・青淵 第887号
- ・青淵 第888号

お札と切手の博物館

- ・ニュース Vol.50

帝京大学総合博物館

- ・－帝京ことはじめ－ SINCE1931 帝京商業学校の物語
- ・ザ・公衆衛生－社会と個人の健康を守る黒衣たち－
- ・館報 第4号

三鷹市スポーツと文化部生涯学習課

- ・三鷹市文化財年報・研究紀要4 令和2年(2020)

玉川大学教育博物館

- ・館報 第20号
- ・紀要(Bulletin) 第19号
- ・博物館ニュース SHU No.58
- ・博物館ニュース SHU No.59

東京家政学院生活文化博物館

- ・祈りの形－上巳と端午の節句飾り－
- ・年報 第31号

武蔵国分寺跡資料館

- ・資料館だより 第48号

清瀬市郷土博物館

- ・古代武蔵と清瀬
- ・年報・紀要 令和2年度

〈神奈川県〉

女子美術大学美術館

- ・年報 2020・2021年度 第19号

赤星直忠博士文化財資料館

- ・資料館だより 第18号

大磯町郷土資料館

- ・島崎藤村と大磯を愛した文人たち
- ・年報－令和3年度－

〈新潟県〉

長岡市立科学博物館

- ・NKH(館報) No.106号

〈山梨県〉

山梨県考古博物館

- ・甲斐の勇者
- ・考古博物館だより No.93

〈長野県〉

長野県埋蔵文化財センター

- ・信州の遺跡 第18号
- ・信州の遺跡 第19号
- ・信州の遺跡 第20号

茅野市八ヶ岳総合博物館

- ・御柱祭
- ・諏訪地方の語り伝承 第3集

明治大学黒曜石研究センター

- ・ 資源環境と人類 第12号
- ・ ニュースレター 第15号
- ・ ニュースレター 第16号

〈静岡県〉

伊豆の国市教育委員会

- ・ 文化財年報 9

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・ 紀要 第41号

〈滋賀県〉

高島市教育委員会

- ・ 大將軍塚遺跡発掘調査報告書 高島市文化財調査報告書第38集
- ・ 弘川宮ノ下遺跡発掘調査報告書 高島市文化財調査報告書第39集
- ・ 高島市内遺跡調査報告書－令和2年度・令和3年度－ 高島市文化財調査報告書第40集

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・ 調査研究報告 第19集
- ・ 館報 第25号

〈大阪府〉

大阪市立自然史博物館

- ・ 研究報告 第75号
- ・ 館報46 令和2年度

堺市立みはら歴史博物館

- ・ 博物館だより 創刊号

茨木市立文化財資料館

- ・ ほとけの心・木のちから－蓮華寺と地域の美術

- ・ 銅鐸から弥生時代社会を見直す
- ・ 館報 第7号（令和2年度）

大阪大谷大学博物館

- ・ 博物館だより No.132
- ・ 博物館だより No.133

〈兵庫県〉

関西学院大学博物館

- ・ 大森啓助コレクション展

〈鳥取県〉

鳥取県教育文化財団

- ・ 石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡（第1分冊）
鳥取県教育文化財団調査報告書123
- ・ 石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡（第2分冊）
鳥取県教育文化財団調査報告書123
- ・ 石塚廃寺東遺跡・大鴨遺跡（第3分冊）
鳥取県教育文化財団調査報告書123

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・ 山口大学構内遺跡調査研究年報 XVIII
- ・ 山口大学構内遺跡調査研究年報 XIX
- ・ 見島ジーコンボ古墳群 東部域出土資料調査報告 館蔵資料調査研究報告書 7
- ・ 年報－平成28年度－
- ・ 年報－平成29・30年度－
- ・ てらこや埋文 第31号
- ・ てらこや埋文 第32号

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・ 岡豊風日 第115号
- ・ 岡豊風日 第116号
- ・ 岡豊風日 第117号
- ・ 開館30周年記念誌

〈福岡県〉

九州産業大学美術館

- ・令和2・3年度 年度報告書 No.10

西南学院大学博物館

- ・キリスト教美術をみとく イエス・キリスト、聖母マリア、諸聖人
- ・考古学からみた筑前・筑後のキリシタン
－掘り出された祈り
- ・研究紀要 第10号

筑紫野市教育委員会

- ・内開遺跡 筑紫野市文化財調査報告書第118集

〈熊本県〉

熊本大学五高記念館

- ・昭和期の第五高等学校調査報告4 戦争 熊本大学五高記念館叢書 第6集
- ・五高記念館館報 第4号

2. 令和5年度（2023年4月～2024年3月）

〈青森県〉

青森市教育委員会

- ・市内遺跡発掘調査報告書31 青森市埋蔵文化財調査報告書第131集
- ・市内遺跡発掘調査報告書32 青森市埋蔵文化財調査報告書第132集

八戸市教育委員会

- ・田面木遺跡第60号地点 八戸市埋蔵文化財報告書第182集
- ・八戸市内遺跡発掘調査報告書47 八戸市埋蔵文化財報告書第183集
- ・史跡は川石器時代遺跡 一王寺遺跡内容確認調査概要報告書 八戸市埋蔵文化財報告書第184集

八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館

- ・行きかう土器とヒト 令和4年度特別展展示図録

- ・食と縄文人 令和4年度秋季企画展図録
- ・北陸の晩期縄文文化 令和5年度夏期特別展図録
- ・年報 第12号－令和4年度－
- ・研究紀要 第12号
- ・掘り day はちのへ 第26号

つがる市教育委員会

- ・つがる市遺跡調査報告書14 館岡屏風山（1）遺跡発掘調査報告書

〈茨城県〉

土浦市立博物館

- ・ハンドブック 土浦“モノ”語り－資料が語る土浦の歴史－
- ・ブックレット2 色川三郎兵衛と土浦の洪水
- ・長島尉信来翰集 土浦市史資料集
- ・年報 第34号
- ・年報 第35号
- ・紀要 第32号
- ・紀要 第33号

取手市埋蔵文化財センター

- ・祈りのかたち－出土品から見る先史時代の祭祀－ 第52回企画展

〈栃木県〉

大田原市教育委員会・大田原市なす風土記の丘

湯津上資料館・大田原市歴史民俗資料館

- ・なす風土記だより 第4号

〈群馬県〉

高崎市観音塚考古資料館

- ・高崎市のハニワⅠ－館蔵資料を中心に－ミニ企画展
- ・剣崎長瀬西遺跡を考える－積石塚を含む5世紀の古墳群－ 第35回企画展

岩宿博物館

- ・みどり市周辺の鉱業遺産－鉄・銅・マンガン
の生産と技術－ 第45回企画展
- ・醸造の文化史－みどり市の酒・醤油－ 第53
回企画展
- ・山恵み－みどり市の林業史－ 第55回企画展
- ・足尾鉄道全線開通100年－わたらせ渓谷鐵道の
歴史－ 第57回企画展
- ・戦後70年戦時下の記憶とくらし 第59回企画
展
- ・二上山麓の考古学－香芝市の歴史と文化財－
第60回企画展
- ・考古学から見た群馬の戦国時代 第61回企画
展
- ・方形周溝墓の世界 第63回企画展
- ・地震・雷・火事・オヤジ？ みどり市災害史
第65回企画展
- ・岩宿遺跡と日本の近代考古学 岩宿遺跡発掘
70周年記念特別展②
- ・相澤忠洋と岩宿時代研究 第75回企画展
- ・郷土カルタの世界 第77回企画展
- ・岩宿Ⅱ石器文化からみた関東地方 第78回企
画展

岩宿フォーラム実行委員会

- ・更新世末期から完新世初頭における遊動的狩
猟採集民 予稿集 岩宿フォーラム2023／シ
ンポジウム

笠懸村

- ・笠懸村誌上巻
- ・笠懸村誌下巻
- ・笠懸村誌別巻3 資料編 近世史料集
- ・笠懸村誌別巻4 資料編 近代現代史料集

吉岡町教育委員会

- ・金竹西Ⅵ遺跡 吉岡町文化財調査報告書第41
集
- ・長久保大畑Ⅳ遺跡 吉岡町文化財調査報告書

第42集

長野原町教育委員会

- ・林中原Ⅰ遺跡Ⅶ 長野原町埋蔵文化財調査報
告書第50集
- ・町内遺跡22 長野原町埋蔵文化財調査報告書
第51集
- ・町内遺跡23 長野原町埋蔵文化財調査報告書
第52集
- ・旧長野原町役場庁舎調査報告書

やんば天明泥流ミュージアム

- ・年報 第2号 令和4年度事業報告

〈埼玉県〉

埼玉県立歴史と民俗の博物館

- ・縄文コードをひもとく－埼玉の縄文土器とそ
の世界－ 特別展

埼玉県立さきたま史跡の博物館・

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第16号
- ・埼玉県立史跡の博物館紀要 第17号

埼玉県立さきたま史跡の博物館

- ・二子山古墳と祈りの器

埼玉県立嵐山史跡の博物館

- ・武蔵武士の食と信仰－食べて祈って戦って－
企画展

埼玉県立川の博物館

- ・うんち・糞・フンⅡ 令和5年度特別展
- ・紀要 第23号

埼玉県立自然の博物館

- ・埼玉シェルフワールド－貝から解く埼玉の自然
－ 令和5年度特別展
- ・研究報告 第17号
- ・ニュースレター 第40号

埼玉県平和資料館

- ・戦争と健康 令和5年度テーマ展
- ・資料館だより Vol.11

さいたま文学館

- ・館報 第26号
- ・紀要 第3号

埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・久喜市 栗橋宿跡Ⅷ 第482集
- ・加須市 長竹遺跡Ⅵ 第483集
- ・さいたま埋文リポート2023 年報43（令和4年度版）
- ・研究紀要 第37号
- ・研究紀要 第38号

さいたま市

- ・さいたま市史 通史編 原始・古代Ⅰ

さいたま市立博物館

- ・さいたまの埴輪 第47回特別展

さいたま市立浦和博物館

- ・館報 あかんさす Vol.51（第120号）

岩槻人形博物館

- ・岡本玉水 人形芸術にかけた生涯－御所人形から玉水人形へ－ 特別展
- ・にんぱくの雛祭り－商家に伝わるお雛さま－ 企画展

川越市立博物館

- ・酒と宴 第50回企画展

熊谷市教育委員会

- ・前中西遺跡Ⅻ 熊谷市埋蔵文化財調査報告書第44集
- ・上中条中島遺跡Ⅱ・諏訪木遺跡Ⅶ・上前原遺跡Ⅵ・Ⅶ 熊谷市埋蔵文化財調査報告書第45集

熊谷市立熊谷図書館

- ・森田恒友の表現展～日本の風景を追求した画家～ 令和5年度秋の企画展
- ・桜の絵画展－春の訪れを告げる－
- ・光の画家 大久保喜一

行田市郷土博物館

- ・描かれた忍城 第33回テーマ展

- ・馬に祈りをのせて 第36回企画展
- ・武門の遺産－徳川家を支えた忍・桑名・白河－ 行田市・桑名市・白河市友好都市締結25周年記念合同企画展

- ・研究報告 第11集

秩父市教育委員会

- ・秩父・下蒔田遺跡'21

飯能市立博物館

- ・天覧山
- ・写真でたどる飯能市の70年
- ・研究紀要 第3号（通巻11号）
- ・収蔵資料目録9（民俗資料目録3） 落合家人形芝居及び説経節関連資料
- ・館報 きつとすレポート 第4号

加須市教育委員会

- ・騎西城跡 KB15区調査－中近世編 遺物2遺構－ 加須市埋蔵文化財調査報告書第16集

早稲田大学考古資料館

- ・下野谷遺跡Ⅵ－縄文時代中期（5）－

春日部市教育委員会

- ・陣屋遺跡11次地点 春日部市埋蔵文化財発掘調査報告書第27集
- ・シンポジウム－神明貝塚－海なし県埼玉でこそ輝く！ 国史跡貝塚に秘められた魅力と未来の姿

春日部市郷土資料館

- ・あなのあいた壺 権現山遺跡の底部穿孔壺と墓でつかわれた土器 権現山遺跡発掘調査60周年記念

狭山市立博物館

- ・おいしいの記憶～狭山の学校給食～ 秋期企画展

深谷市教育委員会

- ・本郷陣屋跡 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第165集
- ・城西遺跡（第4次） 深谷市埋蔵文化財発掘調

査報告書第167集

- ・ 沢口遺跡（第3次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第171集
- ・ 下郷遺跡 XVIII 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第181集
- ・ 城西遺跡（第8次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第182集
- ・ 深谷市内遺跡 XXVIII 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第183集
- ・ 宮林遺跡（第5次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第184集
- ・ 城西遺跡（第5次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第185集
- ・ 外谷田遺跡（第3次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第186集
- ・ 深谷市内遺跡 XXIX 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第188集
- ・ 熊野遺跡（第187次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第190集
- ・ 地神祇遺跡（第3・4次） 深谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第191集

越谷市教育委員会

- ・ 海道西遺跡発掘調査報告書 越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第3集
- ・ 東方西口遺跡発掘調査報告書1 越谷市埋蔵文化財発掘調査報告書第4集

戸田市立郷土博物館

- ・ 研究紀要 第31号

入間市博物館

- ・ 紀要 第15号

朝霞市博物館

- ・ 樹木と人の暮らし 第37回企画展
- ・ 大畑公一家文書目録 朝霞市博物館調査報告書第11集

桶川市教育委員会

- ・ ふじま山遺跡 第4次発掘調査報告書

- ・ 令和4年度 桶川市内遺跡発掘調査報告書
- ・ 三ツ木遺跡 第2次発掘調査報告書
- ・ 殿山南遺跡 第4次発掘調査報告書

久喜市立郷土資料館

- ・ 大集合！ 久喜市の遺跡 第13回特別展

富士見市立資料館

- ・ 新版 富士見のあゆみ
- ・ 打越遺跡～富士見市のもうひとつの縄文時代 前期・大規模集落～
- ・ ひらいた考古館 開館50周年記念展

富士見市立難波田城資料館

- ・ なき人を送る－墓と弔いの歴史－

蓮田市教育委員会

- ・ 宿下遺跡－第26調査地点－ 蓮田市文化財調査報告書第69集

鶴ヶ島市遺跡調査会

- ・ 上山田遺跡第13次 仲道柴山遺跡第17・23次 発掘調査報告書 鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告第92集
- ・ 仲道柴山遺跡第25次 鶴ヶ島市埋蔵文化財調査報告第93集

日高市教育委員会

- ・ 若宮－51次調査－ 日高市埋蔵文化財調査報告書第43集

ふじみ野市立大井郷土資料館

- ・ 徳川家康がやって来た－ふじみ野の江戸時代のはじまり－ 令和5年度資料館特別展

白岡市教育委員会

- ・ 商店街のお宝発見～記憶の中の白岡遺産～
- ・ 山遺跡（第3・9・12・14地点） 白岡市埋蔵文化財発掘調査報告書第32集
- ・ 白岡市生涯学習センター歴史資料展示室紀要 5

三芳町教育委員会

- ・ 町内遺跡発掘調査報告書 三芳町埋蔵文化財報告45

毛呂山町教育委員会

- ・ まま上遺跡第5次・第7次発掘調査報告書
毛呂山町埋蔵文化財報告第36集
- ・ 東原遺跡第1次発掘調査報告書 毛呂山町埋
蔵文化財報告第37集
- ・ 白綾遺跡第2次発掘調査報告書 毛呂山町埋
蔵文化財報告第38集

滑川町教育委員会

- ・ 悪戸遺跡（第3次調査） 滑川町埋蔵文化財調
査報告書第7集

小川町教育委員会

- ・ 町内遺跡発掘調査報告 XXIII 宮ノ脇遺跡（第
2次） 小川町埋蔵文化財調査報告書第40集

吉見町教育委員会

- ・ 史跡 吉見百穴保存活用計画

美里町教育委員会

- ・ 美里町の年中行事 美里町文化財ガイドブッ
ク 3

美里町遺跡調査会

- ・ 南和田遺跡 美里町遺跡調査会報告書第18集

神川町教育委員会

- ・ 観音院南遺跡第3次 神川町埋蔵文化財調査
報告18集
- ・ 巨樹原遺跡第6次 神川町埋蔵文化財調査報
告19集

寄居町教育委員会

- ・ 城見上遺跡（第4次） 寄居町文化財調査報告
第46集

宮代町郷土資料館

- ・ 古代のみやしろ 令和5年度特別展
- ・ 中寺遺跡・道仏北遺跡・地藏院遺跡・山崎遺
跡・姫宮神社遺跡 宮代町文化財調査報告書
第25集

日本工業大学工業技術博物館

- ・ 工業技術博物館ニュース No.116
- ・ 工業技術博物館ニュース No.117

- ・ 工業技術博物館ニュース No.118
- ・ 工業技術博物館ニュース No.119
- ・ 工業技術博物館ニュース No.120

〈千葉県〉

千葉県立中央博物館

- ・ 研究報告 第16巻 第2号

千葉県立房総のむら

- ・ 千葉の行商－小さなからだと大きなカゴと－
千葉県誕生150周年記念事業
- ・ 令和5年度 体験のしおり
- ・ 令和6年度 体験のしおり

千葉県立関宿城博物館

- ・ 地図は世につれ 人につれ 千葉県誕生150周
年記念企画展
- ・ 研究報告 第27号
- ・ 研究報告 第28号

千葉市教育委員会

- ・ 千葉いまむかし 第36号

市川市立市川考古博物館

- ・ 遺伝子からみた古代のイヌ 市立市川考古博
物館図録20
- ・ 館報 第50号

船橋市飛ノ台史跡公園博物館

- ・ ガッコウの下の遺跡－船橋の縄文時代中期－
- ・ とびはくへのトビラ～縄文と出会う～ 第21
回縄文コンテンツ展 in ふなばし
- ・ 紀要 第19号

四街道市教育委員会

- ・ 令和3年度 四街道市内遺跡発掘調査報告書

袖ヶ浦市郷土博物館

- ・ 要覧2023
- ・ 袖ヶ浦市史研究 第21号

千葉縄文研究会

- ・ 千葉縄文研究 10
- ・ 千葉遺跡研究 1

〈東京都〉

東京家政学院生活文化博物館

- ・ごきげんようー100年を彩った華たちへー
令和5年度第35回特別展

法政大学 HOSEI ミュージアム

- ・紀要 第3号

日本文化財保護協会

- ・紀要 第7号

日本博物館協会

- ・博物館研究第 Vol.58 No.4 通巻659号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.5 通巻660号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.6 通巻661号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.7 通巻662号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.8 通巻663号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.9 通巻664号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.10 通巻665号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.11 通巻666号
- ・博物館研究第 Vol.58 No.12 通巻667号
- ・博物館研究第 Vol.59 No.1 通巻668号
- ・博物館研究第 Vol.59 No.2 通巻669号
- ・博物館研究第 Vol.59 No.3 通巻670号
- ・博物館研究第 Vol.59 No.4 通巻671号

台東区立中央図書館

- ・郷土・資料調査室報 第14号

立正大学経営学会

- ・立正経営論集 第55巻 第2号

立正大学博物館学芸員課程

- ・年報 第25号

大田区立郷土博物館

- ・紀要 第25号

國學院大學博物館

- ・研究報告 第40輯

実践女子大学香雪記念資料館

- ・館報 第20号 2022年度
- ・館報 第21号 2023年度

女子美術大学

- ・JOSHIBI No.197
- ・JOSHIBI No.198

学習院大学学芸員課程

- ・学芸員2023 No.27

渋沢栄一記念財団

- ・青淵 第889号
- ・青淵 第890号
- ・青淵 第891号
- ・青淵 第892号
- ・青淵 第893号
- ・青淵 第894号
- ・青淵 第895号
- ・青淵 第896号
- ・青淵 第897号
- ・青淵 第898号
- ・青淵 第899号
- ・青淵 第900号

渋沢研究会

- ・渋沢研究 第35号 渋沢史料館
- ・渋沢研究 第36号 渋沢史料館

お札と切手の博物館

- ・ニュース Vol.52

帝京大学総合博物館

- ・館報 第5号 2021（令和3）年度

博物館セキュリティ強化・連携推進事業実行委員会

- ・ICOM-ICMS 東京大会2023報告書

三鷹市スポーツと文化部生涯学習課

- ・文化財年報・研究紀要5

玉川大学教育博物館

- ・館報 第21号 2022年度
- ・紀要（Bulletin）第20号

武蔵国分寺跡資料館

- ・特別展 史跡武蔵国分寺跡100年のあゆみ
- ・中藤新田分水跡胎内堀 令和5年度秋季企画

展

- ・資料館だより 第51号

清瀬市郷土博物館

- ・年報・紀要 令和3年度
- ・年報・紀要 令和4年度
- ・野塩遺跡群第11地点 清瀬市埋蔵文化財発掘調査報告

〈神奈川県〉

横浜市歴史博物館

- ・ニュース No.54

横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター

- ・野島貝塚－環境変動にみる縄文早期の人々－
横浜の遺跡シリーズ2

三浦市市民部文化スポーツ課

- ・三浦市埋蔵文化財調査報告書第34集

大磯町郷土資料館

- ・三岸節子と大磯 展示図録
- ・大磯町助役日誌（大正7年1月～12月） 資料館資料21
- ・大磯町助役日誌（大正8年1月～12月） 資料館資料22

〈山梨県〉

山梨県立考古博物館

- ・星降る中部高地の縄文世界－黒曜石ネットワークによる物流と人流－ 開館40周年記念特別展

〈長野県〉

長野県埋蔵文化財センター

- ・沢尻東原遺跡 長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書132
- ・信州の遺跡 第21号
- ・信州の遺跡 第22号

明治大学黒曜石研究センター

- ・資源環境と人類 第13号

〈静岡県〉

伊豆の国市教育委員会

- ・韮山城跡発掘調査報告 伊豆の国市文化財調査報告No.17
- ・史跡韮山反射炉保存修理工事報告書

〈愛知県〉

南山大学人類学博物館

- ・紀要 第42号

〈滋賀県〉

高島市教育委員会

- ・高島市内遺跡調査報告書－令和4年度－
高島市文化財報告書41集
- ・南市北・下五反田遺跡発掘調査報告書 高島市文化財報告書42集

〈京都府〉

同志社大学歴史資料館

- ・館報 第26号
- ・上京遺跡・新町校地遺跡発掘調査報告書
同志社大歴史資料館調査研究報告書第20集
伝統芸能アーカイブ&リサーチオフィス
- ・伝統芸能文化創生プロジェクト2022年度事業報告書

〈大阪府〉

茨木市立文化財資料館

- ・館報 第8号（令和3年度）

〈山口県〉

山口大学埋蔵文化財資料館

- ・山口大学構内遺跡調査研究年報XV

- ・年報 No17－令和元年度－
- ・てらこや埋文 第33号

〈愛媛県〉

愛媛大学埋蔵文化財調査室

- ・愛媛大学御幸団地構内遺跡 1 次調査 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XXXV
- ・愛媛大学埋蔵文化財調査室年報2020・2021年度 愛媛大学埋蔵文化財調査報告 XXXVI

〈高知県〉

高知県立歴史民俗資料館

- ・年報 令和4年度 No32
- ・岡豊風日 第119号
- ・REKIMIN CALENDAR 2023.4～2024.3

〈福岡県〉

九州産業大学美術館

- ・令和4年度 Innovate MUSEUM 事業報告書
- ・高齢者をつなぐ美術館と医療福祉施設、行政機関、公民館、他の博物館との連携事業 事

業報告書

西南学院大学博物館

- ・学院史のなかの神学部－成立と歩み、そして現在－ 研究室訪問シリーズⅣ
- ・戦争と学院－戦時下を生き抜いた福岡のキリスト教主義学校－ 西南学院大学博物館研究叢書
- ・研究年報 第15号
- ・研究紀要 第11号

〈熊本県〉

熊本県教育委員会

- ・宮園A遺跡3 熊本県文化財調査報告第346集
- ・玉名平野遺跡群2 熊本県文化財調査報告第347集

〈鹿児島県〉

鹿児島大学総合研究博物館

- ・大隅大崎神領10号墳の研究Ⅲ 鹿児島大学総合研究博物館研究報告No.19
- ・ニューズレター No.48

立正大学博物館年報 21

令和 4（2022）年度

令和 5（2023）年度

令和 7 年 2 月 1 日 発行

編集・発行 立正大学博物館

〒360-0194 埼玉県熊谷市万吉1700

TEL. 048-536-6150 FAX. 048-536-6170

E-mail : museum@ris.ac.jp

URL : <https://www.ris.ac.jp/museum/>

印刷・製本 株式会社イーフォー